

	意見	対応
<p>全体的見せ方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何も知らない人が見る時は目から入る情報が大半になるため、保護者から子供たちまで見て分かりやすいものを作ることが大事ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 項目のタイトルをできるだけイメージしやすい表現にすると同時に、4章2のイラストと5章の構造が連動する形とした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の関心は、今後自分たちの地域の学校はどのようになっていくのかであるため、項目の要素としては良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい学校のイメージとあるが、それを新しい学校づくりに具体的にどのように反映させていくのかがもう少し分かりやすくなると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4章2のイラストと5章の構造が連動する形とした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要版を作成する場合は視覚的に見やすいもので作成する方が良いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概要版の作成については、今後検討する。
<p>第5章の構成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の構成は良いと思うが、第5章に関しては分かりにくい部分がある。今後自分たちが考えている「新しい学校」を構成する要素が何かということと、それを受けて今後どのようにしていくかという方向性が明確に書かれていないように感じる。見せ方やまとめ方についてももう少し分かりやすくなるような工夫が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章の見出しを『新しい学校づくり』を実現するための検討事項」とし、各項目の冒頭に今後の方向性を提示する構成とした。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第5章で出てきた具体的な要素が基本計画や整備指針にどのようにつながっていくのか、という対応関係まで定めるのか、進め方を提示するのか、イメージができると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章の各項目の冒頭に提示する今後の方向性において、基本計画、整備指針のどちらで整理するのか、ということを明記した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設、学校経営の内容について細分化して表示した方が良いのではないか。財政・コスト面と施設整備に分かれているが、そこから管理運営や経営について分けた方が分かりやすいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章3「学校のマネジメント」の中で、「学校施設の整備と管理」と「学校のマネジメントに要する経費」に細分化した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 項目によって検討のレベルに違いがある。地域や学校によってどのように進めるのかを検討する場合と、原則の方向性は 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の検討に先立って、検討レベルを改めて整理する。

	<p>決まっていて、採用するレベルを検討するといった場合もある。決めにくい点もあるので今後の課題となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目次に小中一貫教育や学校選択制の記載があると、それらが前提となっていると見えてしまう。第5章の構成や書き方を工夫する必要がある。 ・ 学区の見直しについて、現在は学校と地域の関係に記載があるが、これは新しい学校制度に入るのではないか。 ・ 第5章については、「新しい学び」を実現するために一番に考えてきたことを最初に持ってくるなど、項目の順番等を検討した方がよい。 ・ 「新しい学び」については一番初めに記載し、小中一貫校や学校選択制等の学校制度は、を新しい学びを実現するためのオプションのようなものとしても良いのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫校と学校選択制をまとめて5章4(2)「学校配置の方策」の中で整理した。 ・ 5章4(2)「学校配置の方策」の中で、通学区域の見直しについて記載した。 ・ 5章冒頭に「学校における学び」としてまとめた。 ・ 「新しい学び」については5章1「学校における学び」に、小中一貫校と学校選択制はまとめて5章4(2)「学校配置の方策」に整理した。
追加が必要な項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営について、現状ではコストについてのみなので、運営方法や維持管理についても議論する必要がある。 ・ 教職員の職場環境や職員室、働き方改革などもポイントになるのではないか。 ・ 「新しい学校」を構成する要素として、脱炭素化やエコスクール、防災面についてなど意見として出たもので要素として入っていないものがある。 ・ 委員会全体を通して、学校と他の公共施設の複合化についての意見が出ていたが、その記述が少ないように感じる。 ・ 施設整備における発注方法(PFIや官民連携など)についても言及する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章3「学校のマネジメント」の中で、「学校施設の整備と管理」と「学校のマネジメントに要する経費」に細分化し、維持管理や運営方法等についても言及した。 ・ 5章3(1)「教職員の配置・働く環境」を追加した。 ・ 5章3(2)「学校施設の整備と管理」の方向性において言及するとともに、防災面については5章2(2)地域の防災機能を追加し、方向性を提示した。 ・ 5章2(3)「地域利用施設の複合化」を追加した。 ・ 整備指針において、整備手法についても検討する。
新しい学校制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 望ましい学級規模(1学級当たりの人数)について、理想はあるが実際の基準では記載より多くなければならない。(教職 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章4(1)の方向性で、望ましい人数と実現のためには教職員の加配が必要であることを提示した。

	<p>員の加配等により)学級規模を少なくしていくかどうかも含めて小田原市がどうしていくのかが問題となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模特認校の記載があると、方針として望ましい規模にしようとしても選択肢として残っていれば小規模特認校に動いていく可能性があると思う。 ・ 学校規模が小さくなってきた場合の打開策として小中一貫校や複合化で対応するという考えもあるので、学校のあるべき姿のようなものを記載するのも必要なのではないか。 ・ 10年後の「新しい学校」については、全てをフルスペックにするのは難しいが、違いがある学校で不公平が出ないようにして、一定の教育があり、学校によつての違いをだすことで公平性があれば良いのではないか。 ・ 学校を選ぶにあたり、新しい物差しが必要になるのではないか。今までは学区や距離だったが、今後は新しい決め方の物差しを検討すると書いてあっても良いのではないか。 ・ 教育委員会と住民とで学校選択制の認識が違う可能性がある。齟齬が出ないようにするためにも学校選択制の項目はもう少し分かるように記載する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章4(2)「学校配置の方策」の方向性で、小規模特認校を今後増やしていくのかどうかについて、早急に検討すると明記した。 ・ 5章2(3)「地域利用施設の複合化」や5章4(2)「学校配置の方策」の中で想定される選択肢を提示した。 ・ 5章4冒頭で全てをフルスペックにすることは難しいことと、今後の検討の方向性を提示した。 ・ 基本計画の中で検討していく。 ・ 5章4(2)「学校配置の方策」に学校選択制の項目をまとめた。
新しい学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ インクルーシブとバリアフリー、ユニバーサルデザインなどは必ずしもリンクするものではないため、内容を整理して議論する必要がある。 ・ 第5章のデジタル化(ICT)というタイトルについて、この2つは内容としては違う物であり、デジタル化の中のICTをフォーカスして行っていくという意味であれば良いが、方針としては2つを区別して表記した方が好ましいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整備指針において、整理しながら検討していく。 ・ タイトルを「デジタル化」とし、「デジタル」と「ICT」の使い方に齟齬がないようにした。
合意形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合意形成の項目が住民の関心があるところ。どのように住民に伝えていくのかを明確に説明した方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5章5「実現に向けたプロセス」の方向性において、検討段階から地域の意見を取り入れていくことを明記した。

	<ul style="list-style-type: none"> 合意形成の項目は詳しく記載すると逆に制約を設けることになる可能性があるため、今のような書き方でも良いのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとの合意形成プロセスのイメージ図を大まかな流れがイメージできるようなものに修正した。
	<ul style="list-style-type: none"> 合意形成の場にどのような人が参加するか、ということを整理する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画の中で検討していく。

【第5章の構成比較】

前回(第9回)	今回(第10回)
<p>第5章「新しい学校」を構成する要素</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新しい学校制度 <ol style="list-style-type: none"> (1)小中一貫教育 (2)学校選択制 2 新しい学び <ol style="list-style-type: none"> (1)学びの規模 (2)インクルーシブ教育 (3)デジタル化(ICT) 3 学校と地域との関係 4 学校経営 5 学校施設 6 合意形成プロセス <ol style="list-style-type: none"> (1)合意形成 (2)庁内の検討体制 	<p>第5章「新しい学校」を実現するための検討事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校における学び <ol style="list-style-type: none"> (1)インクルーシブ教育 (2)地域資源を生かした学び (3)デジタル化 2 学校と地域との関係 <ol style="list-style-type: none"> (1)学校運営への参画 (2)地域の防災機能 (3)他の施設との複合化 3 学校のマネジメント <ol style="list-style-type: none"> (1)教職員の配置・働く環境 (2)学校施設の整備と管理 (3)新しい学校経営 4 前提となる学校配置の考え方 <ol style="list-style-type: none"> (1)学びの規模 (2)学校配置の方策 5 実現に向けたプロセス <ol style="list-style-type: none"> (1)多様な主体との合意形成 (2)庁内の検討体制